

参考文献(刑事:事実認定)

分野	番号	文献・論文名	編著者	出版社	備考
事実認定全般	★1	刑事事実認定ガイド(令和2年12月)	司法研修所 刑事裁判教官室		司法修習生向けに、事実認定に関する思考法や判断過程の説明方法について整理したものであるが、裁判官にとっても参考になる。
	2	刑事事実認定入門(第3版)	石井一正	判例タイムズ社	
	3	刑事裁判の理論と実務(中山善房判事退官記念)(307頁) 「事実認定における分析的検討と総合的評価について」	池田修	成文堂	
	4	法曹養成実務入門講座(2) 事実認定 涉外事件(143頁) 「特集II 刑事事実認定」	田中康郎ほか	大学図書	
	5	実践的刑事事実認定と情況証拠(第4版)	植村立郎	立花書房	
	6	実例刑事訴訟法III(185頁) 「56 情況証拠による立証と合理的疑い」	岩瀬徹	青林書院	
	7	植村立郎判事退官記念論文集第1巻(349頁) 「合理的疑いを超える証明川について」	村瀬均	立花書房	
論点ごとの論文集	★8	刑事事実認定重要判決50選 上・下(第3版)	植村立郎	立花書房	刑事事件の争点となり得る多数の論点につき、裁判例を題材に、事実認定のポイントを掘り下げた論文集。事実認定に悩んだときはまずは本書を紐解いて参考になりそうな論文がないか探すのがよい。本書の番号12, 17, 20~22も本書中の論文の一つである。
	9	刑事事実認定の基本問題(第3版)	木谷明	成文堂	本書の番号18, 23も本書中の論文の一つである。
	10	刑事事実認定—裁判例の総合的研究—(上)・(下)	小林充・香城敏麿	判例タイムズ社	本書の番号14, 25も本書中の論文の一つである。
頻出論点	11	植村立郎判事退官記念論文集第2巻(249頁) 「被害品の近接所持による窃盗犯人の認定」に関する一考察	平塚浩司	立花書房	
	12	刑事事実認定重要判決50選(第3版)上(675頁) 「39 間接事実としての盗品の近接所持」	河本雅也	立花書房	
	13	判例タイムズ241号(17頁) 事実認定の実証的研究 「第3回 犯人と被告人の結びつき(その2)」	大阪刑事実務研究会	判例タイムズ社	
	14	刑事事実認定—裁判例の総合的研究—(下)(81頁) 「贋物の近接所持と窃盗犯人の認定」	渡邊忠嗣・北島佐一郎	判例タイムズ社	
特殊詐欺の故意	15	検査研究64巻10号(2頁) 「振り込め詐欺等特殊詐欺の受け子事案における故意及び共謀」	猪股正貴	東京法令出版	検察官執筆
	16	警察学論集68巻11号(38頁) 「いわゆる受け子の故意に関する検査とその立証について」	加藤経将	立花書房	検察官執筆
	17	刑事事実認定重要判決50選(第3版)下(31頁) 「44 詐欺罪における故意—特殊詐欺の受け子」	高橋康明	立花書房	
薬物使用の故意	18	刑事事実認定の基本問題(第3版)(419頁) 「薬物事犯における故意の認定について」	平城文啓	成文堂	
	19	警察学論集68巻3号(42頁) 「危険ドラッグ事犯における故意に関する検査とその立証」	鎌田隆志	立花書房	検察官執筆

参考文献(刑事:事実認定)

令和4年1月版
東京地裁・大阪地裁作成

分野	番号	文献・論文名	編著者	出版社	備考
頻出論点	20	刑事事実認定重要判決50選(第3版)下(207頁) 「55 薬物事犯における「使用の認識」」	杉山慎治	立花書房	
	21	刑事事実認定重要判決50選(第3版)上(463頁) 「26 強制性交等罪における「被害者供述の信用性」」	遠藤邦彦	立花書房	
	22	刑事事実認定重要判決50選(第3版)下(507頁) 「73 被害者供述の信用性」	松田道別	立花書房	
	23	刑事事実認定の基本問題(第3版)(157頁) 「共謀の認定と判例理論」	朝山芳史	成文堂	
	24	小林充先生 佐藤文哉先生 古希祝賀刑事裁判論集 上巻(198頁)	出田孝一	判例タイムズ社	
	25	刑事事実認定—裁判例の総合的研究—(上)(341頁) 「共謀共同正犯」	石井一正・片岡博	判例タイムズ社	
共謀	26	判例タイムズ254号14頁 事実認定の実証的研究「第6回 共謀の認定」	大阪刑事実務研究会	判例タイムズ社	
	27	科学的証拠とこれを用いた裁判の在り方	司法研修所	法曹会	科学的証拠を用いた事実認定が問題となつた際に読むべき文献
最近の参考裁判例	28	最高裁平成30年7月13日第二小法廷判決 刑集72巻3号324頁			被告人を殺人及び窃盗の犯人と認めて有罪とした第1審判決に事実誤認があるとした原判決に、刑訴法382条の解釈適用を誤った違法があるとされた事例
	29	最高裁平成30年12月11日第三小法廷判決 刑集72巻6号672頁			指示を受けてマンションの空室に赴き詐欺の被害者が送付した荷物を名宛人になりますして受け取るなどした者に詐欺罪の故意及び共謀があるとされた事例
	30	最高裁平成30年12月14日第二小法廷判決 刑集72巻6号737頁			詐欺の被害者が送付した荷物を依頼を受けて名宛人になりますして自宅で受け取るなどした者に詐欺罪の故意及び共謀があるとされた事例
	31	最高裁令和元年9月27日第二小法廷判決 刑集73巻4号47頁			詐欺の被害者が送付した荷物を依頼を受けて送付先のマンションに設置された宅配ボックスから取り出して受領するなどした者に詐欺罪の故意及び共謀があるとされた事例
	32	最高裁令和3年1月29日第二小法廷判決 刑集75巻1号1頁			自動車を運転する予定の者に対し、ひそかに睡眠導入剤を摂取させ運転を仕向けて交通事故を引き起こさせ、事故の相手方に傷害を負わせたという殺人未遂被告事件について、事故の相手方に対する殺意を認めた第1審判決に事実誤認があるとした原判決に、刑訴法382条の解釈適用を誤った違法

※ ★印がついたものは特に重要な文献である。